

ささえあいの家スケジュール



2016
7月

☆イベントカレンダー 預約 はお電話ください。

月	火	水	木	金
4	5 囲碁・将棋 10:10~	6 プリント相談 10:10~	7 パソコン相談 10:10~	8 小谷さんの 囲碁講座 10:10~
11	12 「介護保険 で、こんなサー ビスが あります」 ヨガ体験 13:00~	13 14 ボムバンド体操 10:30~	15 洋服の 着付け教室① 10:10~	16 行燈絵付け① 13:00~
18	19 海の日 10:10~	20 パソコン 相談 10:10~	21 子どもフェスティバル 10時~12時 認知症茶話 会 13:00~ 予約 13:00~	22 洋服の 着付け教室② 13:00~
25	26 子どもフェスティバル 10時~ ガーゼハンカ チ作り 13:00	27	28	29 行燈絵付け② 13:00~

ささえあいの家での認知症茶話会

地域包括支援センター・カーサ・レスポート 清水さん

認知症の人、その家族、そして地域の人が、1つのテープルを囲み、和やかな雰囲気の中で会話をすすんでいきます。ご家族、ご自身のことなどまらず、「地域」に目を向けた意見交換も活発になされています。

「声をかけると興奮してしまわれる認知症の方への接し方」が話題になりました。いろいろな体験から語られる参加者の意見は次のようでした。
 ・症状により配慮した方がよいことはあるが、認知症だからと言って特別なことと考えない。
 ・障がいがあるても、病氣があつてもなくとも、関わり方は同じ。
 ・尊厳ある一人の人間として接する。
 ・誰にでもするように、いつも通り挨拶をしたらよい。
 会釈だけでもいい。
 どなたもどうぞ気軽に参加してください。



ささえあいの家は各種会合にも使っていただけます。図書の貸し出しも行っています。どうぞご利用ください。

幼稚中高生の皆さんには、ささえあいの家にもあそびにきてください。おじさん・おばさんが宿題のお手伝いを。囲碁将棋の日には対戦をします。オセロ・本・おでだま・おりがみなどもあります。

子どもフェスティバル：バルーンアート・紙芝居・お菓子作り・戦時体験のお話、手芸



5/21 講演会を開催 三浦和広氏 「最新の福祉制度を知ろう」

参加者の感想より

講演の内容① 障害者差別解消法

例①吃音の人の面会時間は、健常者よりも長くするなど配慮する
例②身体障害者が並んで順番を待つ時は、椅子にかけて待てるよ
う配慮する。
障害があると告白でき、それを受容する地域であることが大事。

②介護保険制度の改正～要支援サービスの行方

「要介護になつたら施設入所、病弱になつたら入院」の時代は終焉するかも知れない。
・単価の安いサービスの必要のために、無資格ヘルパーで対応可能となつた。
・一人での自由すぎる暮らしで、他者と約束をしない人が多くなれば、孤立死は確実に増える。
・独居になつた時、体調不良の時どのように向き合うか。突然の体調異変の際の対応について覚悟が必要。
・・・事例を交えての説得力のある講演でした。

★隣りとの付き合いの大切さを思った。

・例えば旅行や親戚の不幸で出かける時、お隣に「何日間留守にするのでよろしく」と伝えて出かけるだけでも、自分も安心できるし近隣の人も安心できると思った。
・近隣との付き合いが大事だ。
・遠い親戚より近くの他人の謹みおり、近隣の皆様となかよくつながりを大切にすることだと痛感した。
・隣近所でもっと気遣いせねばとも思った。

★地域とのつながりを持つことの大切さを思った。

・平日天気の良い時は外出することで、元気でいることを知つてもらう機会になればと思っている。
・今も社会とのつながりは持つようにしていくが、今後もっと年をとつた時でも、近隣の方や地域の方ともつながりをもつとうにし、家族、娘息子親類とも連絡をとつていただきたい。
・私は一人暮らし。65歳付き合いはないに等しい。改めて危険を感じた。
・独居老人がこれから増えていくが、地域との交流を持ちお互いに助け合って生きていく技が必要だと感じた。趣味をもち、いろんな人々と毎日しゃべることが認知症の予防となると思う。

★覚悟

・近い将来、独居老人になるのだと気がついた。
・今まで持ってきた覚悟を今さらながらもう一度確認したい。
・実際の話を聞いて今後の生活を考えなおすことができるようになつた。一人になったとき、地域に自分のことを知つてもらうように自分も努力すること。